



品質・エコニュース



部内展開を願います

発行日 2017/12/28
発行NO. 181
発行部署 技術管理室(事務局)
発行者: 武井

このコーナーでは、品質・環境関連情報・ニュースなどをお伝えします。
内容に関する質問等技術管理室までお願いします。

 トピックス

～2015年度規格について(IX)～

ISO14001・9001の2015年度改訂版が2015年9月15日に正式発行され、JIS改正版についても同年の11月20日に発行されました。

今回は「引き渡し後の活動」「外部から提供されるプロセス、及びサービスの管理」について解説させて頂きました。

今回は「環境が組織に与える影響への対応、汚染の予防に加え、持続可能な資源の利用、気候変動、生物多様性などへの対応拡大」について解説させて頂きます。

環境が組織に与える影響への対応は箇条6.1.1で定められています。この2015年度版では影響は組織に対する変化の結果を表すために用いられています。一方環境影響は特に環境に対する変化の結果を意味しています。つまり箇条6.1.1のリスク及び機会は環境の変化の環境影響のみだけではなく、組織に与える影響について含める必要があります。

持続可能な資源の利用、気候変動、生物多様性などへの対応拡大は旧規格では汚染予防のみコミットメントを求められてましたが、2015年度版にはそれに加えて組織の状況に関するその他の固有なコミットメントを含む、環境保護に対するコミットメントにまで拡大され、注記として「持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護が例示されています。

これらのことを考慮すると気候変動等による環境が組織に与える影響があるのかまたどれだけの影響があるのかを把握して、リスク及び機会を特定することになると思います。

現在の仕組みでは環境側面によって環境影響を把握して、その重大性及び可能性を考慮して著しい環境側面を特定して、マネジメントシステムで管理してきました。

この仕組みに加えて、上記の仕組みを追加する必要があると考えます。

今回は「2015年度版変更部のまとめ」について解説させて頂きます。(審査が2月7～9日で予定されているためその内容を含めて発行させて頂きます。)